
北陸地域国際物流戦略チーム 令和7年度 第1回 広域バックアップ専門部会

日 時：令和7年10月1日(水)15:00～17:00

場 所：朱鷺メッセ新潟コンベンションセンター 201 会議室

方 式：対面・オンライン会議（Microsoft Teams）併用形式

出席者：別紙、名簿のとおり 35 名(会場 19 名、WEB 16 名)

1. 議 事

① 今年度の代替輸送訓練について

【委員】

・とても良い取り組みをやっているのにコロナ渦以降訓練参加者が年々減っているのはもったいない。地元の名古屋商工会議所に訓練のPR声掛けを行うと良い。

② 代替輸送基本行動計画フォローアップについて

(人手不足について)

【委員】

・北陸港湾の受入体制について、少子化、賃金の上昇、労働時間の規制、働き方改革などにより人手不足は深刻な問題となっている。人材確保にも苦慮している。

【委員】

・太平洋側の貨物を北陸港湾でどれだけ受け入れられるか非常に不安。

(荷役機械について)

【委員】

・いつ発生するかわからない災害に対応するために高額な機械を置いておけない。

【委員】

・自動化や遠隔操作などは、地方港ではコスト面から難しいが、今後考えていく必要がある。

【委員】

・人手不足対応のためのターミナル自動化投資と取り扱い規模の関係については、研究例がある。

(貨物の分散化)

【委員】

・BCPのひとつとして、北陸港湾に多くの既存航路がある釜山港を活用する方策がある。釜山港に運び、トランシップポイントではなくストックポイントとして活用し、釜山港の倉庫から（世界）各地に出荷するという考え方である。

【委員】

・釜山港をバックアップとして考えることは良いが、海外に依存した場合、突然使えなくなる可能性があり、経済安全保障上の問題があるのでは。日本国内でどの程度捌けるか検討しておいた方が良い。

③ 物流 BCP 作成支援について

・特になし

④ 今後の広域バックアップ専門部会について

【委員】

・太平洋側荷主との交流が必要。例えば北陸港湾の見学会を実施し、その後交流会を開催するなど、平時から顔の見える連携が必要である。

【委員】

・自然災害以外にサイバーテロのリスクが高まっている。サイバーテロで港湾が止まるリスクは無視できない。そういったリスクを念頭に置くとバックアップの考え方が変わるのではないか。

2. 代替輸送に関する事例紹介（豊田通商株式会社）

質疑応答

【委員】

・雪に対する懸念があったが、雪は降るものとの前提で備えは進めている。大雪時にも、半日で対応しており、各港で融雪装置などの整備を進めている。

【委員】

・多様な物流ルートの実証例はコストや日数も様々だが、これらをふまえ、これら検討が重なっていく先として、何を重視したルートを確保するのか？

【豊田通商】

・部品数も多く、コストや影響の程度など裾野が広い。コストなどどこまで耐えられるかは難しい議論である。まず、いろいろなオプションをそろえることを重視し、コスト、実現性を考える。経済的に使えるか、有事に使えるか、がポイントとなる。